

|           |   |
|-----------|---|
| Title     | 継続術ニ於ケル歯根ノ準備ニ就テ   |
| Author(s) | 奥村, 鶴吉  |
| Journal   | 齒科學報, 12(7): 11-15  |
| URL       | <a href="http://hdl.handle.net/10130/1537">http://hdl.handle.net/10130/1537</a> |
| Right     |   |

沃双合劑ノ塗布等亦佳ナリ

待、期、療、法、 亞爾加里洗滌水或ハ合嗽等ヲヨシトス

バトリン氏ハ輕度ノモノニハ三乃至四布仙重曹水、梅毒性ノモノニハ〇・二乃至〇・〇四布仙格羅謨酸水等ヲ局處ニ塗布シタリ

昇汞水(〇・一乃至〇・四布仙溶液)硼砂蜜、硼酸偏里設林等亦用ユベシ合嗽料トシテ「バイロゾン」、  
硼酸水、重曹水ヲ投與ス

外科的療法、硝酸銀等ヲ用ヒテ腐蝕スルハ不佳ナリ刺戟ヲ附與シテ癌腫變性ノ傾向ヲ大ナラシム  
最安全ナル効果ヲ收得セント欲セバ疣狀或ハ斑狀ヲナセルモノヲ可及的廣ク切除スルニアリ  
電氣燒灼及ヒパッケリン氏燒灼法又用ユルニ足ル

### ◎繼續術ニ於ケル齒根ノ準備ニ就テ

於齒科醫俱樂部席上

ドクトル 奥 村 鶴 吉

諸君我輩ハ繼齒術ニ於ケル齒根ノ準備ニ就テ暫ク清聽ヲ汚スノ榮ヲ得タイト存ジマス、繼續齒ニ  
ハ其種類ガ中々數多ク御坐イマスケレモ齒根準備ノ方面カラ申シマスルト簡單ニ之ヲニツノ種類ニ

分ケタ方が適當デアロウト存ジマス、第一ハ無鑲ノ繼齒、第二ハ有鑲繼齒即チ前齒ニ於テハリツテモ  
ント繼齒、白齒ニ於テハ金冠ノ如キ種類デアリマス

第一ノ無鑲繼齒例之前齒ニ於ケルダービー繼齒ノ如キ場合ニ於キマシテハ技工學的ノ所置ニ於  
テ先ヅ第一ニ必要ナノハ根管ノ開鑿デアリマス、此目的ニハ諸種ノ「ドリール」「バー」「リーマー」等  
ガ用キマスケレモ其中最佳ナリト信ズル者ハ「ピーター氏」「リーマー」デアリマス、是ハ其形ガオット  
リング氏ノ「リーマー」ニ似テ居リマスケレモ一層銳利デアルノト、尖端ガ特異ノ錐形ヲ呈シテ居ル  
爲ニ齒根管ノ壁ヲ穿通スル様ナ不慮ノ災害ヲ防グコトガ出來ル、然シナガラ豫メ根管ノ長サト其方向  
トヲ知ルコトハ甚ダ必要デ、普通ニ知ラレタル如クニ「多バードム」ノ小片ヲ神經針ニ通ジタ者デ之ヲ  
検査スルノガ適當ナ方法デアロウト存ジマス、之ヲ加アルニ「ユーニヴハーサル、カー、ブローチ」  
ヲ以テ根管ヲ出來ル丈開鑿シテ置クノガ必要デアリマス此「ブローチ」ハ指頭ヲ以テ根管内ニ押シ進  
メルモノデスカラ根管ヲ穿通スルガ如キ患ナク能ク根管ノ方向ヲ知リ「リーマー」ヲ用ユベキ指針ト  
スルコトガ出來マス、「ピーター氏」「リーマー」ヲ以テ根管ヲ擴大スル場合ニハ可成的舌側ニ向ツテ開ク  
ノガ必要デアリマシテ之ハ諸君ガ屢々經驗セラル、如ク、若シ根管ノ位置ニ準ジテ擴大シマスト合釘  
ヲ置イタ場合ニ前裝陶齒ヲ適合スル餘地ガナイコトガアル假令アツテモ密接シテ居ツテ合釘ヲ屈曲シ  
ナケレバ裏裝ヲ施スコトガ出來ナイノガアルカヲデアリマス、尙「ピーター氏」「リーマー」ニハ大小三

種アリマシテ之ニヨリテ開鑿シタル場合ニハ其根管ノ大サハ丁度十四番、十五、十六番ノ圓錐形ノ合釘ヲ挿入シテ密接致シマス。

ソレカラ根面ノ形成ハ大部分ハ切斷鉗子「コロンドム」又ハ「カーボランダムホキール」ヲ以テシマスガ最後ニハオットリシグ氏ノ「セーフサイド、ルートフエーサー」ヲ用エルノガ最も適當デアルト存ジマス。此「フエーサー」ハ「ホキール」ヲ用エル様ニ齒齦ヲ傷ケズ患者ヲ困ムルコト少ク其剖面ガ滑澤平坦デアル爲ニ繼齒ヲ作ル場合ニ其調製法ガ甚ダ簡便デアル、此「フエーサー」ニモ大サガ三種アリテ根面ノ廣狹ニ應シテ其一ヲ撰用致シマス、ソーシテ其削力ハ「ホキール」ヨリモ餘程銳利デアルカラシテ齒根形成ニ時間ヲ要スルコトガ比較的少ナイノデアリマス。

次ニ有鑲繼齒ノ場合ニハ先ツリツチモンド繼齒ニ就テ申シマズレバ根管ノ準備ハダービーノ場合ト同一デアリマスケレバ、根面ヲ齒齦縁下マデ削平スルニ先チテ先ヅ根ノ側面ヲ形成シナケレバナリマセン、之ヲナスニハ「デスク」ヤ「ホキール」ヨリモケース氏ノ「エナメル、クリーパー」及「ビーソー」氏ノ「スケラー」ガ遙ニ有利デアリマシテ豫メ齒齦ニ古加乙涅ト「アドリナリン」ヲ合セタ溶液ヲ塗布シテ居イテ全珐瑯質ノ全ク削除セラル、迄根ノ周圍ヲ削ルノデアリマス、ソースルト根ハ全ク象牙質ノミヲ露出シテ其面甚ダ滑澤トナリ鑲ヲ適合スルニ適當ナル形態トナリマス、若シ僅デモ珐瑯質ガ殘ツテ居ルト鑲ハ根ニ密接セズシテ維持ガ不完全デアルバカリデナク色々ナ侵害テ起シマ

ス、此珐瑯質が全ク除去セラレタカ、ドーカト云フコハ探針ヲ以テ其面ニ觸レマスト珐瑯質ノ殘ツテ居ル所ハ粗糙ニ感ジマスカラ容易ニ之ヲ推知スルコトガ出來マス、兩隣接面ノ部分ハ殊ニ注意シテ形成スルコトヲ要シマス根側面ノ形成ガ終ツタナラバ根面ヲ削平スルニ先チテ鑲ヲ調製シテ根ニ適合シテ見ル、デ此鑲ノ根ニ向フ部分ハ齒槽縁ノ形ニ應ジテ屈曲形ニ鑿削スルコトヲ要シマス、之ヲスルニハ先ヅ「デンチメーター」デ根ノ大サヲ計測シ之ニ從フテ金鋸ヲ切リテ鑲トシタル者ヲ根ニ箱入シ齒齦縁ノ彎曲ニ沿フテ「チセル」ノ如キモノヲ以テ鑲面ニ印ヲ附シテ置イテ口外ニ取り出シ其印ノ通リニ剪去シ少シク打槌シテ根ニ箱入シマスト大約適合セシメルコトガ出來ルカラ適合シタナラバ再ビ之ヲ口外ニ取り出シテ置イテ次ニ根面ノ形成ニ取りカ、ル、根面ノ形成ニハ、ヤハリピーソニー氏「フエーサー」ガ適當デアルト存ジマス、リツチモンド繼齒ノ場合ニ於ケル根面ノ形成ハ特ニ「リツチモンドシエーブ」ト云フテ一番最初ハ唇側及舌側ニ傾斜セル山形ニ作りマシテ其次ハ舌側ノ根面丈平坦ニスル方法ガ行ハレマシタガ近頃デハ唇側ハ齒齦縁下ニ低ク舌側ハ齒齦縁上ニ高キ一ツノ一斜面ニ作ル方法ガ用キラレテ居リマス、之ハ其形成ガ簡單デアルト金帽ノ調製ガ亦簡便デアル爲ニ賞用セラレテ居ルノデアリマスカラ、根面ガ出來上ツタナラバ再ビ鑲ヲ箱入シテ其内面ニ根面ニ沿フテ「チセル」ニテ線ヲ畫キ其部分ヲ剪去シ又ハ鑿削シ全ク根面ト平坦ナルニ至ラシメナケレバナナイ、然シテ後金鋸ヲ取りテ極メテ平坦ナラシメ金鑲ニ鑿着シマスト容易ク金帽ガ出來マス、次ニ

合釘ヲ鐵着スルニハ先ヅ根面ニ極少量ノ蜜蠟ヲ置キ金帽ヲ插入シ壓接シテ取り出シマスト其内面ニ附着シタ蜜蠟ノ一部分ガ根管ノ位置ニ應ジテ突隆シテ居ルカラ其部ニ穿孔シ合釘ヲ插入鐵着致シマス

金冠ヲ調製スル場合ニハ規則トシテ若シ其齒牙ガ活キ居ルナラバ之ヲ失活セシムルコトガ必要デアリマス、生齒ニ施シタル金冠ハ後來概ネ不結果ニ終ルモノト豫期シナケレバナラス、生齒ニ於ケル形成ハ患者ヲ困シマシムコト甚ダ多クシテ充分ニ齒質ヲ削除スルコトハ殆ンド不可能デアルト云ハナケレバナリマセン、臼齒ニ於ケル齒冠ノ形成ニハリーシング「デスク」ガ甚ダ適當デアルト存ジマス此場合ニ於テモ、ヤハリ珫瑯質ノ全體ヲ削除スルヲ以テ標準トシテ大概差支ナイト考ヘマス即チ「デ」ンチメーター」ヲ以テ齒頸ノ周圍ヲ計測シタル場合ニ容易ニ録ヲ齒牙カラ取り外スコトガ出來レバ其齒冠ハ側面ノ形成ヲ終ツタト云フテ宜イト思フ咬合面ハ全ク咬頭ヲ削平スルニ至ルヲ以テ度トシナケレバナリマセン

抑モ繼續齒ノ維持ハ其根トノ適合ニヨリテ確實ナルヲ期スベキモノデアツテ決シテ「セメント」ノ如キ合着劑ノ力ヲ藉リテ齒根ニ固定スベキモノデハナイノデアリマス、故ニ繼續齒ノ維持如何ハ其大部分ヲ擧ゲテ齒根ノ形成法如何ニ期スベキモノデアリマシテ我々ハ此方面ニ一層注意シナケレバナラスコト愚考致シマス (花澤生筆記)